

短期留学で得たもの

広島工業大学専門学校 国際交流センター

短期留学制度について

本校では平成5年に国立シンガポール・ポリテクニク校(以下SP校)と姉妹校提携を結び、学生・教職員相互の交流を続けています。両校の強い信頼関係のもと、毎年十数名の両校の学生が研修プログラムに参加し、グローバル感覚を養っています。また、4年前より半年間の短期留学制度が新たに設けられ、これまで3名の学生が参加しています。平成22年度は2名の学生が、この制度によりIT技術やセキュリティの授業を受け、人間的にも大きく成長して帰ってきました。

両学生の留学レポートの一部を紹介いたします。



ITスペシャリスト学科
3年 吉川 尚宏
(尾道商業高等学校出身)

今回私は、10月12日から2月23日までの約4ヶ月間、SP校での留学を経験しました。過去に2週間のシンガポール研修にも参加しましたが、それは2年前であり、現地の記憶も定かではなかったため、実際にシンガポールへ来るまでは非常に不安でした。

また、2年前の研修時に仲良くなった友達とは日本に帰ってから連絡を取っておらず、さらにSP校を既に卒業していたため、知り合いが全くいない状況でした。これについては、一緒に留学へ行った清代君の友達を頼ることによって解決しましたが、2週間の研修でお世話になった友達とは日本に



左端が筆者

帰ってから交流を続けておくべきだと強く感じました。

勉強熱心な学生

SP校の授業の内容は非常にレベルが高く、充実していました。また、先生と学生と一緒に授業を作っている感じを受けました。日本と違い、授業中に寝ている学生がまずいけません。この留学中、授業中に寝ている学生を見たのはたったの一回。それだけ学生が授業に対して真面目に取り組んでいます。また、分からないことがあれば積極的に手を上げて先生に質問し、熱意を持って授業に参加しています。分からなくても質問しない日本の学生とは違います。先生も授業中に何度も「分かった?」「何か質問ある?」と学生に声掛けをし 私に対しても、先生が口癖のように「Do you have any question?」と頻りに問いかけてくださるので、質問が無いときは申し訳なく思うこともありました。

自分を変える貴重な経験

今回の留学を一言で表すと、「とても楽しく良い経験」です。自分の性格や考え方を変わる良い機会にもなりました。日本とは言語も文化も全く違う場所へ行き、初めはすごく戸惑いながらも徐々に生活に慣れていき、その事を

自分自身が感じ取ることができました。勇気を出して進んでみれば意外ななんとでもなるものです。授業自体は、英語力の未熟さから日本で授業を受けるように内容の全て隅から隅まで理解できませんでしたが、異国で生活することによって見えてくる日本の良い点と悪い点や、私自身の今までとこれからの生き方、すべてを再認識することができ、今回留学を経験させてもらったことに対して非常に満足しています。

もし、留学を迷っている人がおられたら、勇気を出して行ってください。日本ではできない経験ができ、それが将来にきっと役立ちます。是非そのチャンスを活かして下さい。自分にとって何かプラスとなるものが必ず得られるはずです。

最後に、留学するにあたり本校の先生方、そしてSP校の先生と学生、その友達、大変お世話になりました。この場を借りてお礼を言わせていただきます。本当にありがとうございました。



ITスペシャリスト学科
2年 清代 翔太
(尾道商業高等学校出身)

滞在期間は約5ヶ月、SP校の授業に出席したのは実質4ヶ月という、留学としては少し短い期間となりましたが、出発前には不安でいっぱいでした。こんなに長く家を離れて生活するのは初めてで、しかも私は英語もまともに話すことができません。海外での生活にワクワクする一方で、それ以上に大きな不安を感じていました。しかしシンガポールに着いてみると、SP校の学生、先生方が温かく迎えてくれ、その後も生活面・学習面で幅広く手助けをしていただきました。私がこの留学を無事に終えることができたのは、彼らのサポートのおかげであったと感じています。



留学生活はとても充実した内容となりました。SP校は国立学校であり、施設・設備が大変整った環境の下で勉強することができ、SP校の学生たちの勉強に対する熱心な姿勢に大きな刺激を受けたりもしました。

学校以外でも、友人や先生方がいるんな所へ連れていってくれ、シンガポールについて少し詳しくなることができました。私が滞在していた期間には、マレーのハリ・ラヤ・ハジという祭り、クリスマス、ニューイヤーデー、チャイニーズニューイヤーと様々なイベントがあ

り、周りの方から「とてもいい時期にシンガポールに来たね」と言われたのを覚えています。ハリ・ラヤ・ハジの日にはモスクへ行ったり、クリスマスには教会へ行ったり、日本にいるときには関わりのなかった皆さんの文化に触れることができ、生活面でもとても充実した日々を送ることができました。

日本語クラスに参加して

とても親切に対応してもらっているSP校に対し、なんらかの形でそのお礼をしたいと考え、SP校で日本語の授業を受講している学生たちに、「生の」日本人と触れ合う機会を提供するというのを思いつきました。そこで、日本語クラス担当の教師の方を訪問し、「なにか日本語クラスのためにできることはないか」と申し出ました。先生はこの申し出を大変喜んでくださり、日本語の授業への参加が実現しました。SP校には1~3年生、たくさんの日本語クラスにお邪魔することになりました。

授業当日、SP校の学生から様々な質問が飛んできました。私自身に関することや、日本に関する質問でした。学生たちが話す日本語は完璧なものではないけれども、皆とても積極的に話そうとしていました。私は英語を話すときに「間違っていたらどうしよう」「伝わらなかったらどうしよう」と考えてしまい、結局黙ってしまう、ということがよくあります。彼らの積極的に話す姿に、言語を学ぶ上で大切なことに気付かされたような気がしました。



前列左端が筆者

授業終了後も何人かの学生と一緒に夕食をとるなど、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

自分自身の成長を実感

英語に対する不安がとても大きかったのですが、友達など周りの人とコミュニケーションをとることができ、日常生活(買い物など)においても不便を感じることは殆どありませんでした。普段は内気で引っ込み思案な私ですが「海外なのだから、わからないことが多いのは当たり前」と開き直ることで、躊躇することなく何事も周りに尋ねることができました。そんな生活は、私を大いにタフにしてくれたような気がします。いろいろな場面ですぐに行動に移す度胸ができました。私自身が感じる変化かも知れませんが、留学を終えて「自分の変化」を感じ取れることがとても嬉しく、大きな収穫だと思えます。これから始まる就職活動や、その後待っている社会人としての生活において、そういった変化が役に立つことと信じています。

今回の留学は決して自分一人の力で実現したものではありません。この留学のお話を持ちかけてくれ SP校と交渉をくださった本校の先生方、送り出してくれた家族、そういった皆さんの人の協力の上で実現し、さらにたくさんの現地の方のご支援によって無事に終えることができました。本留学に関わってくださったすべての方々に、感謝の気持ちを贈ります。